

兵庫運河

菅田 忠志

素晴らしい絵がたくさん展示されていた。案内を
いただいて出向いた兵庫県立美術館 原田の森キヤ
ラリーでの「第10回ふれあい公募美術展」。

そこに展示されているものは、それぞれが作者の
個性が生きて表現された絵ばかりで、絵心の乏
しい私ではあるけれど、ときおり立ち止まり見入っ
てしまつ絵。そんな絵には不思議と人の心を引きつ
ける力を持っていた。

そんな絵のひとつに、「兵庫運河」があった。勤務
先が近くだったせいもあつて、昼休みにはこのあた
りをよく散歩したものだ。

兵庫津の国のかなめとして、百余年の歴史を刻ん
できたこの風景も、今は主として周辺の木材産業
の貯木場として活躍している。

力強く描かれた昼下がりの、やゝ逆光気味の明る

- 1 -

い運河の風景は、こまやかな水面の表現が特に素晴
らしく、私の目と心を引きつけた。曳航される引き
舟の後部の、左舷側と右舷側に残してゆく微妙な波
の相違から、小さく右にカーブを描いて引かれて行
く様子が、見事な表現力で描かれており、作者の心
の目が伝わって来るような思いがした。

自分はカメラで草花を追いかけることが多いが、
この絵を見ながら、自分がこの場所でカメラを手に
したときを想像してみた。逆光の中での水面の遠近
の微妙なひかり具合の違いや、ていねいに刻まれた
さざ波などは、到底カメラではとらえきれないと思
った。「描く力」の深さを感じた。

案内をいただいた友人の手紙には、「米寿を迎え
た母が、今回は30号の絵を一年かけて描きあげまし
た」と書かれていた。

この案内に凄い!と思いつながら出向いたが、その
絵はやはり凄かった。そこには「NHK神戸放送局
賞」の受賞札が輝いていた。

- 2 -

「第10回ふれあい公募美術展」

受賞絵画：日本画「兵庫運河」 牟田 峰子氏の
作品を観て

2004年12月3日